岡本眞利子 議員
（政清会）

問 がん対策とがん患者に対する支援について

答 生活習慣を見直していただき、がんになる要因を減らし早期治療に結びつける

問 毎年9月は、がんに関する正しい知識やがん検診の重要性などを集中的に活動をする「がん征圧月間」である。日本人の2人に1人が生涯のうち、がんに罹ると推計されおり、北海道でもがんにより亡くなられる方は全体の約3割と死因の第1位となっている。国は「第4期がん対策推進基本計画」を本年4月よりスタートしているが本町として今後の推進状況を伺う。

⑴がん受診率の向上について

①主ながん（胃、肺、大腸）の男女の罹患率

②15～19歳、20歳代以降の年代別の罹患率

③無料クーポン券の発送数と受診率の現状

④今後の受診率向上に向けた取組

⑵アピアランスケア（※1）について

医療用ウィッグや補整用下着などがん患者の生活の質の向上につながる支援についての考えは。

⑶膀胱がん、前立腺がん患者の支援として公共施設等の男性用個室トイレにサニタリーボックス（汚物入れ）の設置についての町の見解は。

（※1）「アピアランスケア」
医学的・整容的・心理社会的支援を用いて、外見の変化に起因する患者の苦痛を軽減するケア

町長

⑴①胃がんは男性が126・2例、女性が71・7例、肺がんは男性が197・1例、女性が71・7例、大腸がんは男性が149・8例、女性が78・9例で、女性より男性の罹患率が高くなっている。

②全部位におけるがんの罹患率は、国立がん研究センターの統計から、北海道における2019年の年代別の罹患率で、15歳から19歳は19・9例、20代37・6例、30代114・1例、40代298・9例、50代616・4例、60代1393・3例、70代2214・1例、80代2713・7例、90代以上で2741・4例となっており、60代以上で急激に高くなっている。

③令和4年度のクーポン券の発送数は、子宮がん検診の20歳と24歳で合わせて207人、乳がん検診は142人で、うち、受診された方は、子宮がん検診が31人で15・0%、乳がん検診が48人で33・8%となっている。

④がん検診受診のメリットや、罹患すると手術や長期間の治療と副作用等のリスクがあることについて、広報やパンフレットを通して周知するなど、未受診者への受診勧奨を行い、検診会場等で受診継続に向けた勧奨をしている。

⑵医療用ウィッグや補整用下着の購入が各医療保険の給付対象外であることなどから、医療用ウイッグと補整用下着の購入に関する助成を行っている自治体の実績や、がん患者の意向などを十分踏まえ、「がんと共に生きる人生」の支援としてどのような役割を果たすことが適切なのか研究していく。

⑶町内の公共施設のうち、常時開放している施設で多機能トイレ等を設置している施設が14か所あり、トイレには尿漏れパッドなどを捨てることが可能なサニタリーボックスを備え付けている。これらの施設の利用を住民に周知していく。

再質問

男性用個室トイレのサニタリーボックスについては、今後、多様性にも配慮した対応も必要になってくる。多目的トイレのみではなく当事者が気兼ねなく使用できるよう配慮することも重要ではないのか。

町長

⑴男性トイレの個室すべてにサニタリーボックスが必要だとは思っていない。サニタリーボックスが設置されている多機能トイレを利用していただくことで十分間に合うのではないか。